

平成二十四年度 冬季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「冬」

期間 平成二十四年十一月一日～平成二十五年一月末  
投句数 二、一八〇句

特選三句

天

方丈の日溜りに寄る冬の蝶

神奈川県横浜市青葉区

寺橋正光

地

梟の二声三声谷戸眠る

神奈川県鎌倉市

金井千恵子

人

木枯の天園降りて瑞泉寺

千葉県柏市

伊藤正博

入選句

一般の部

紅梅のほころぶ苑の筆供養

神奈川県鎌倉市

池田達郎

柏手を打つ間も押され初詣

東京都武蔵野市

池田宏治

冬紅葉十色に余る円覚寺

神奈川県三浦郡葉山町

石橋静江

初詣背を正しゆく段葛

神奈川県横浜市緑区

伊藤とく

初夢やひこばえ育ち大銀杏

神奈川県鎌倉市

大井章

御仏をほのかにともす冬紅葉

神奈川県鎌倉市

鬼塚恵美子

振り向けば寒燈ひとつ山暮るる

東京都練馬区

勝田剛史

虚子墓所を明るくしたり冬紅葉

神奈川県鎌倉市

小助川雅人

鎌倉の恵方へ走る人力車

東京都町田市

竹内弘

百八つの響きがつなぐ去年今年

神奈川県鎌倉市

土山忠滋

露座仏の肩にも落葉降るままに

神奈川県鎌倉市

長尾俊郎

頼朝も歩きし冬の鶴岡

神奈川県横浜市都筑区

中野達也

大仏の伏目に冬日とどまれり

神奈川県伊勢原市

旗川万鶴子

鎌倉の海の香りや初日の出

神奈川県横浜市青葉区

山下省三

お降りや街ことごとく神々し

東京都大田区

山田隆紀

(順不同)

入選句

子どもの部

明月院窓からのぞく冬紅葉

埼玉県さいたま市南区

井上美侑

かまくらのやまよりみおろすふゆのうみ

埼玉県さいたま市南区

江口弘希

小春日に歴史感じる建長寺

埼玉県さいたま市中央区

表 大輝

おおわらじはいてみたいなゆきのうえ

長野県松本市

加藤優和

さむいあきなんだかいいなとりのこえ

神奈川県鎌倉市

紀 叡浩

冬紅葉赤や黄色に染まりつつ

東京都大田区

儀間真理

降る雪は歴史とともに積もりゆく

東京都足立区

小泉志織

木枯と歴史の香る文学館

東京都足立区

棚岡伶央

新品のマフラー巻いていざ鎌倉

東京都足立区

田野智規

予定よりはるかに歩いた冬の日を

東京都足立区

寺島一輝

冬休みまた行きたいな長谷寺へ

埼玉県さいたま市中央区

納谷保奈実

北風に肩を縮める如来像

東京都足立区

野村百音

鎌倉の景色の主役冬紅葉

埼玉県さいたま市南区

平澤悠

さむいよるきらきらしてるほしがすき

神奈川県鎌倉市

藤田千奈

大仏に綺麗なけしよう冬紅葉

東京都中野区

松井純平

(順不同)